

～肉用繁殖牛～ 瀬戸覚治さん（京丹後市久美浜町）

今回は約半世紀、牛と共に生活されている京丹後市久美浜町の瀬戸さんをご紹介します。

瀬戸さんは40歳を前に牛舎を建て、そこから繁殖牛5頭を飼養し、本格的に肉用繁殖経営を始められました。

一時期は飼養頭数が1頭まで減少したこともありましたが、元来生き物を飼うのが好きということもあり、85歳のご高齢となった今でも元気に牛を飼い続けられています。

牛の飼養管理は、昔から変わらず、稲作のワラと野草を中心に、配合飼料を適量給与されています。「夏場は野草を毎日刈り取るのは大変だが、牛のために体が続く限りは続けたい。牛のエサを得ることと農地を守ることの両方ができている。」と語られていました。

喜ばしい話として、今年定年退職された息子の幸寿さんが和牛繁殖経営に加わってくれるようになりました。幸寿さんは大学で畜産を専攻し、

当场で実習を受けた経歴もあります。

幸寿さんは増頭の第一歩として昨年当场で開催された妊娠育成牛譲渡会で牛を導入され、今年は飼料作物の作付けにも挑戦されるなど、新たな取り組みに意欲を見せられています。

経営継承に大きな期待を寄せる瀬戸さんと幸寿さんの親子二人三脚で、ますます和牛繁殖経営を盛り上げていかれることと関係者も期待しています。（碓高原牧場 島村）



瀬戸覚治さん

～ 採卵鶏 ～ （有）グリーンファームソーゴ（福知山市）

福知山市大江町の有限会社グリーンファームソーゴは採卵鶏18万羽を飼養し、毎日14万個の卵を出荷されています。

農場では2018年3月にHACCP認証を取得し、翌年の2019年3月には近畿の養鶏場初のJGAP認証農場として登録されました。阿部社長は「HACCP認証取得中に、今まで勘や経験に頼っていた作業手順を文字に起こし記録をとることで、その作業の意味を改めて考えるきっかけになった。また作業効率が向上したことでこの取組の意義を改めて感じた。」と発言。さらに働き方改革を受けて職場環境の改善を目指しJGAPを取得されました。

しかし、「HACCPやJGAP認証は目標ではなく、衛生管理や労務管理の向上を継続するための手段」と仰います。取得に満足するのではなく、職員向けのセミナーや意見交換会を継続して行い、鶏にとっても従業員にとっても更により環境を目指していきたいと考えておられます。

このような取組が評価され、6月に行われたG20大阪サミットではブランド卵の「卵どすえ」が提供食材として選ばれました。今後の展望を伺うと「自社の卵が安心安全であることを消費者にも認知してもらい、信頼を武器にしていきたい。」と語られています。（研究・支援部 井尻）



社長の阿部勝之さん(右)と農場長の綱島登さん(左)